

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷 ● 京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.79
5月号

2012年5月15日発行

伝統を受け継ぐ
稚児 愛らしく



特集
1

町立医療機関に医師3名を増員

特集
2

「府立林業大学校」が開校



今月の表紙

4月7日から9日にかけて行われた猿田彦神社開扉大祭。その幕開けを飾る稚児行列では、地元子どもたちが緊張の面持ちで神社への道のりを歩いていました。(関連記事を15ページに掲載)

特集1

医療体制充実が実現

「町立医療機関に 医師三名を増員」



寺尾町長が就任以降、町政運営の最優先課題として取り組んできた「医師確保」。関係機関への地道な要望活動などが実を結び、本年四月に新たに三人の医師が勤務を開始しました。今回の特集では、これまでの取り組み経過をはじめ、充実した医療体制の状況や医師の思いなどをお伝えします。

京丹波町における 地域医療の現状

全国的に「医師不足」「地域医療の崩壊」が叫ばれる中、町内では平成二十一年三月に和知診療所の常勤医師一人が異動し、休日・夜間などの時間外救急診療を中止したほか、病床を医療提供と在宅生活へ向けたりハビリなどを行うことができる介護療養型老人保健施設へ転換。これにより一般病床がなくなることから、入院機能を京丹波町病院が担うなど、町立医療機関の機能を分担することで運営を行ってきました。

このような状況の中、平成二十一年十一月に寺尾豊爾町長が就任し、「安

心・活力・愛のあるまちづくり」を町政運営の柱に、「町内の医療機能の充実」を最優先課題に掲げ、町民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指して、町を挙げての積極的な取り組みを展開してきました。

しかし、依然として医師確保を取り巻く状況は厳しく、平成二十三年三月には和知診療所の常勤医師が異動。平成二十三年四月には町立医療機関の運営体制を一本化し、医師の派遣体制や医療機関における連携強化、経営の効率化を図るなど基盤づくりを努めてきましたが、マンパワーである常勤医師確保は喫緊の課題でした。

医師確保に向けた 取り組み

本町では、平成二十二年四月に総合的な医療対策を推進する「医療政策課」を設置したほか、医師を目指す大学生や研修医などに対する「医師確保奨学金貸与制度」を創設。平成二十二年八月には「京丹波町医療等審議会」を設置し、京都府立医科大学山岸久一学長(当時)を顧問に、住民代表および町内外の有識者から構成される委員により、地域医療の確保や町立医療機関のあり方などについて審議が重ねられ、二回にわたり答申が行われました。



地域医療のあり方について慎重審議をする医療等審議会の様子(町中央公民館・蒲生)

このように、行政と地域住民、関係機関が連携した取り組みを展開する中、町長として今まで以上に足しげく京都府や関係機関に出向き、医師確保に向けての積極的な要望活動を実施。ほかにも、すでに勤務されている医師からの紹介など人と人とのつながりを生かした地道な活動を試みたことで、本来であれば困難であった医師確保が実現し、本年四月一日から新たに三人の医師(京丹波町病院二人、和知診療所一人)が勤務を開始しました。また、退職により本町の医療機関から離れる予定であった佐藤秀一郎医師も、これまでの経過などを考りよいதாக、嘱託医師として引き続き和知診療所所長を勤めています。



常勤医師として勤務を開始した仲村医師(和知診療所・本庄)

NO.79 CONTENTS

2 特集1 医師体制充実が実現 「町立医療機関に医師三名を増員」

6 特集2 林業の発展に新たな道筋 「府立林業大学校」が開校

9 暮らしのガイド
—65歳以上の方の介護保険料を改定しました

10 人の動き

12 Dr's Message いきいき健康術

13 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2012

- 地域を守る思いを新たに34人が入団
—消防団入退団および役員任命式
- 適正な行政運営に向け連絡協議体制を確立
—公共工事等からの暴力団排除に関する合意書調印式
- 人権を守る思いを新たに
—人権擁護委員委嘱状伝達式
- 林野庁長官表彰受賞を報告
—船井林業友の会林野庁長官表彰報告
- 見る人の心を豊かにする
—ふるさと人形展
- 三十年に一度の大祭を盛大に斎行
—猿田彦神社開扉大祭
- 地域活性化の思いとともに大空を泳ぐ鯉のぼり
—由良川の鯉のぼり
- 期待に胸を膨らませ学校生活スタート
—入学・入所式
- 力を結集して大きな支援の力に
—スポーツ少年団ジャガイモ植え付け

身近な医療機関を目指し診療体制を充実

本年4月1日から診療体制などを変更し、より身近で親しみやすい形を目指す町立医療機関。新任医師のインタビューを交えて、変更内容などについてお知らせします。

診療体制などの変更点

町立医療機関では、新たに三人の医師が勤務したことや、医療等審議会から答申を受けた改善点に基づき、本年四月より次のとおり診療体制の変更や新たな取り組みを行っています。

新任医師にインタビュー

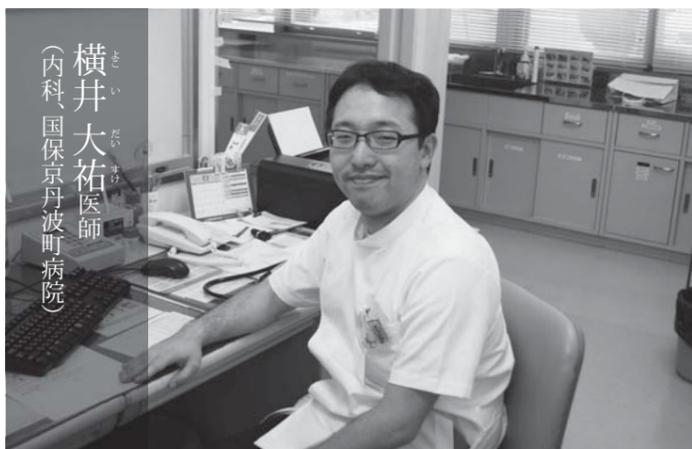
INTERVIEW

以前に、佐藤前院長や前田院長と一緒に仕事をすることがあり、そのときのご縁もあり、今回所属する大学の教室の異動により京丹波町で勤務することになりました。京丹波町病院の外科部長として勤務しますが、週一回在宅で療養されている患者さんの訪問診療を行うほか、質美診療所の所長として週一回の診察を行っています。出身が綾部市ということもあり、昔から京丹波町のことを知っていました。このたび京丹波町病院で働くこととなり、これからこの町の地域医療に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



庄林 智医師
(外科、国保京丹波町病院)

今まで久美浜病院で勤務していましたが、このたび大学の異動により京丹波町病院で内科医長として働くことになりました。京丹波町病院では、職員の皆さんが高い意識をもって診療にあたられている姿に地域の医療を守るという気概を感じています。内科的なケアを中心に、地域のニーズに答えていけるよう自分ができることをがんばっていききたいと思っております。よろしくお願いいたします。



横井 大祐医師
(内科、国保京丹波町病院)

地域医療に従事したいと前から思っており、いくつかの病院に勤務した後、今回知り合いの紹介により和知診療所で副所長として勤務することになりました。診療所での勤務と聞いたとき、小さい施設イメージでしたが、二階には老健施設もある大きな施設で、多くの患者さんが受診されており、地域になくはない施設であると感じました。地域の「かかりつけ医」として、「まずは近所の診療所に受診しよう」と思ってもらえるような何でも話せる雰囲気を作りたいと思います。



仲村 司医師
(内科、国保京丹波町病院和知診療所)

和知診療所



- 常勤の内科医師が勤務することにより、「かかりつけ医」として同じ医師の診療が受けやすくなります。
- 京丹波町病院の医師体制が充実したことにより、和知診療所の医師が不在時に代診が可能となりました。

国保京丹波町病院



- 平日午前中の内科診療がすべて二診体制となり、内科体制の充実や待ち時間が短縮されました。
- 院外処方への移行により、今まで以上に詳しく薬の説明が受けられるほか、他の病院などで処方されている薬とあわせて保険薬局で処方してもらうことで、飲み合わせのチェックもしてもらえます。また、ジェネリック医薬品も推進されます。

和知歯科診療所



- 新たに土曜日昼間の診療を開始したことにより、仕事や学校などの関係で受診できなかった方も受診できるようになりました。

質美診療所



- 担当医が都合により診察できないときは、休診などの対応を余儀なくされてきましたが、医師体制の充実により安定した医師派遣を行います。

林業の発展に新たな筋道

「府立林業大学校」が開校



次代の日本の林業を担う人材の育成を目指して平成二十四年四月に開校した「京都府立林業大学校」。開校記念式典の様子や大学校の概要、関係者の思いをお伝えします。

開校までの経緯

平成二十三年二月、京都府はこれからの日本の林業や森林整備を担っていく人材を育成するために、「林業大学校」の開校を発表。本町では、古くから京都府の林業の中心的な役割を担ってきたことから、林業振興の起爆剤として期待し、京丹波町内での設立を要望してきました。京都府で候補地について検討された結果、本町の要望が認められ、このたび西日本で唯一の林業専門の大学校が京丹波町で開校しました。

林業大学校入学式・開校記念式典

四月九日、京都府立林業大学校の講義棟第一教室（町和知支所二階）において入学式が行われました。式では只木良也校長が「夢の実現は一人の力だけでなく、家族、関係者、地域の支援が必要です。二年後には日本の林業を担ってくれるよう願っています。」と新入生二十一人に対して述べました。

その後、和知ふれあいセンターに会場を移して行われた開校記念式典では、新入生のほか、学校、地域および林業関係者約四百人が出席。山田啓二京都府知事が「森林は守り通さなければならぬ資源。森林を守り、環境を守る担い手としてしっかりと学んでいただきたい。」と述べ、これから始まる新入生の二年間の学生生活を激励しました。

林業大学校の概要

林業大学校では、全国で初めて高性能林業機械を導入した操作研修など、実践的な実習が行われるほか、野生鳥獣による農産物被害に対応するための知識の習得や、捕獲する技術の実習を行うなど、林業に関連したさまざまな教育課程が組まれています。

このほか、神社仏閣や京町屋などの建築、茶道・華道・庭園など「木の文化」が息づく京都の特性を生かした、幅広く学べる講座をそれぞれの分野で活躍される講師を招いて行われます。

林業大学校運営を支える体制

町では、今回の林業大学校開校を契機に、大学校と地域との相互連携により地域振興や林業大学校の発展につなげようと「京都府立林業大学校地域連携協議会」を設立。地域ぐるみで大学校の運営と学生生活をサポートし、大学校も地域のイベントへの積極的な参加を行うなど、地域貢献に向けた取り組みが進められることとなります。



林業大学校での授業風景



開校記念式典で祝辞を述べる山田知事



地域連携協議会設立総会の様子



入学式後の入学生と山田知事ほか関係者

65歳以上の方の 介護保険料を 改定しました

介護保険制度では、3年ごとに介護サービスにかかる費用(介護給付費等)の見込みをもとに保険料の見直しを行います。京丹波町の介護サービスにかかる費用は、平成21年度～平成23年度(第4期事業計画期間)は約52億円でしたが、介護を必要とする高齢者の増加や介護給付費準備基金(預金)の減少、介護報酬の改定などにより、平成24年度～平成26年度(第5期事業計画期間)は約61億円に増加する見込みとなり、今回、平成24年度から平成26年度までの介護保険料を改定しました。

●保険料の基準額

第5期の介護サービスにかかる費用のうち、21%は65歳以上の方(第1号被保険者)の保険料によりまかなわれます。

$$\text{基準額} = \frac{\text{必要な介護サービスの総費用} \times \text{65歳以上の方の負担分 21\%}}{\text{65歳以上の方の人数}} = 64,200\text{円}$$

●介護保険料の体系

負担能力に応じた負担を求める観点から、本人の所得や世帯の課税状況などに応じて、平成23年度までの10段階から11段階(特例段階含む)に設定しました。

段階	対象者要件	保険料(年額)
第1段階 (基準額×0.50)	老齢福祉年金の受給者で世帯全員が住民税非課税の方、または生活保護を受給している方	32,100円
第2段階 (基準額×0.50)	世帯全員が住民税非課税で、本人の合計所得金額+課税年金収入額が80万円以下の方	32,100円
特例第3段階 (基準額×0.70)	世帯全員が住民税非課税で、本人の合計所得金額+課税年金収入額が80万円を超え120万円以下の方	45,000円
第3段階 (基準額×0.75)	世帯全員が住民税非課税で、第1、第2および特例第3段階以外の方	48,200円
特例第4段階 (基準額×0.95)	世帯に住民税課税の方がおり、本人が住民税非課税で、合計所得金額+課税年金収入額が80万円以下の方	61,000円
第4段階 (基準額×1.00)	世帯に住民税課税の方がおり、本人が住民税非課税で、特例第4段階以外の方	64,200円
第5段階 (基準額×1.20)	本人が住民税課税で、合計所得金額が125万円以下の方	77,100円
第6段階 (基準額×1.30)	本人が住民税課税で、合計所得金額が125万円を超え190万円未満の方	83,500円
第7段階 (基準額×1.65)	本人が住民税課税で、合計所得金額が190万円以上500万円未満の方	106,000円
第8段階 (基準額×1.85)	本人が住民税課税で、合計所得金額が500万円以上1,000万円未満の方	118,800円
第9段階 (基準額×2.00)	本人が住民税課税で、合計所得金額が1,000万円以上の方	128,400円

※合計所得金額とは、税法上の用語で、事業所得、給与所得、雑所得(公的年金等)などの合計金額です。

●保険料の納入方法

特別徴収 年金が年額18万円以上の人。原則として、年6回(偶数月)の年金定期支払いの際に、介護保険料をあらかじめ差し引きます。

普通徴収 年金が年額18万円未満の人。口座振替や納付書で納入いただきます。

●保険料の算定と納入時期

平成24年度介護保険料は、前年度所得に基づいて6月に賦課決定し、通知します。そのため特別徴収では、4・6・8月分を仮徴収として2月分と同額を納入いただき、6月に決定した年額から仮徴収分を差し引いた額を10・12・2月分の年金から納入いただきます。また、普通徴収については、6月～3月の10期で毎月納入いただきます。

INTERVIEW



京都府立林業大学校
校長 只木良也さん

■どのような経緯で校長に就任されましたか

私は京都生まれの京都育ちで、農林省(現在の農林水産省)で林業試験場等に勤務後、信州大、名古屋大などに勤務し、退職後は環境アセスメントの仕事などをした後、京都に戻ってきました。その後、今回のお話をいただき本校の校長に就任することとなりました。

■これから二年間林業大学校で学ばれる学生の皆さんに一言

自然を愛する人はたくさんいますが、自然はどういうルールで動いているのかを理解し、自然を尊敬できる人になってほしいと思います。

■林業で大事なことは

林業というのは、いかに材木を効率よく取り出すか、また効率よく育てるかであり、そのためには自然界の法則を知る必要があります。そのベースとなるのが私の専門である生態学となります。

■今回林業大学校に入学された二十一名の学生の皆さんに望まれることは

本校では、全国でも初の高性能林業機械の操作研修を行い、この機械をいかに有効に使うかなどを指導します。

しかし、ただ機械が使えるようになるだけでなく、自然界のルールにのっとりたうえで、機械を使う作業が行える人を育てたいと考えています。なぜ森林の管理が必要か、どういう森林が必要なのか、わかる人を育てたいと思っています。



開校記念式典で誓いの言葉を述べる林さん

■どのようなきっかけで志望されましたか

広島で社会人として働いていましたが、以前から林業には興味があり、今回大学校の開校を知り志望しました。

■どのようなことを学びたいですか

大学校では、林業に関連したさまざまな分野の専門家から、技術や知識を学ぶことができるということで楽しみにしています。

■大学校卒業後の進路はどのように考えていますか

この大学校で実践的な技術などを習得することで、将来は林業の現場で働きたいと考えています。

新入生
林瑛輝さん



INTERVIEW インタビュー

区長さん お世話になります

【丹波地区】
 笹尾／森口文夫
 中畑／小林秀雄
 辻村／松谷實二
 中村／山西義幸
 下村／山田一裕
 鎌倉／野田典志
 西階／原澤英雄
 水戸／西垣正則
 新水戸／岩崎光春
 須知／湊 敏
 市森／杉本 彰
 上野／須知 要
 蒲生／岡本益美
 蒲生野／田中三治
 曾根／上田秀男
 院内／野間健治
 幸野／藤田哲雄
 森／森 功
 塩田谷／谷口文啓
 安井／谷山市衛
 富田／岩崎順男
 豊田／門 隆雄
 上豊田／野口密次
 実勢／北村 勝
 下山／村上 薫
 グリーンハイツ／藤田 進

【瑞穂地区】
 中台／庄林正治
 橋爪／山内善郎
 和田／山下憲二
 井脇／前田信男
 大朴／友金一郎
 井尻／松村孝雄
 八田／細井貞武
 小野／谷内誠樹
 長谷／黒坪一樹
 坂井／上田 進
 水原／高橋由政
 上大久保／石田靖久
 下大久保／島中敏春
 鎌谷下／井田康治
 鎌谷中／塩田滿義
 鎌谷奥／木南哲也
 東又／山田和美
 保井谷／真野勝也
 粟野／山内幸博
 妙楽寺／上田雅信
 水呑／西村 優
 三ノ宮／山本佳弘
 質志／岡花芳樹
 戸津川／田中吉弘
 猪鼻／西山芳明
 行佛／田畑孝夫
 中村／三好 稔
 庄ノ路／林 周治
 和田／上林 治
 上野／小西 明
 下村／大西弘二
 北久保／山内哲夫

【和知地区】
 中山／松下義行
 升谷／山内康彦
 市場／前林良明
 大倉／井上 要
 篠原／金子美晴
 大迫／堀 泰弘
 長瀬／山口好信
 塩谷／松下信之
 上乙見／竹内敬治
 下乙見／白樫 貢
 西河内／藤田敏秀
 下栗野／川邊智行
 細谷／石田克巳
 上栗野／梅原 一
 仏主／田井 勲
 本庄／四方敏一
 坂原／久保 勝
 中／片山勝義
 角／片山幸男
 広瀬／石原 肇
 才原／原田真行
 大簾／才村正基
 広野／舞谷紀之
 出野／片山敏宜
 稲次／蒲生 優
 安栖里／森 直宏
 小畑／片山欣吾

教職員の異動

【転出】（ ）は転出先など
 竹野小／教頭・川勝明彦(下山小)
 ▼名倉洋一(南丹市立吉富小学校)
 ▼岡村貴之(和知小)
 ▼伊藤澄子(和知小、事務主任)
 丹波ひかり小／下和田剛(竹野小)
 ▼桐村陽子(亀岡市立安詳小学校)
 ▼浦嶋一久(南丹市立園部小学校)
 ▼松本たか子
 (亀岡市立城西小学校、事務専門幹)
 下山小／三嶋 浩(竹野小)
 和知小／藪本好央(下山小)
 ▼中尾純子
 (南丹市立園部第二小学校)
 ▼橘 康生
 (南丹教育局、京丹波町派遣)
 瑞穂小／小嶋正悟(南丹市立平屋小学校)
 蒲生野中／教頭・河村泰宏
 (亀岡市立育観中学校)
 ▼一瀬 誠(南丹市立園部中学校)
 瑞穂中／教頭・田中健介(和知中)
 ▼川勝 彰(蒲生野中)
 ▼西垣一也(南丹市立園部中学校)
 ▼北條貴子(亀岡市立南桑中学校)
 和知中／教頭・平田敬一(蒲生野中)
 ▼小林政喜(精華町立精華西中学校)
【転入など】（ ）は前任校など
 竹野小／教頭・三嶋浩(下山小)
 ▼下和田剛(丹波ひかり小)
 ▼松本まどか(亀岡市立安詳小学校)
 ▼仙波尚子
 (舞鶴市立吉原小学校、事務主事)

丹波ひかり小／松下真也

(木津川市立加茂小学校)
 ▼青木志織(新規採用)
 ▼山本裕司(下山小、事務専門幹)
 下山小／川勝明彦(校長・竹野小)
 ▼藪本好央(和知小)
 ▼森 真祐(福知山市立雀部小学校)
 和知小／片山幸男(校長・南丹教育局)
 ▼前谷浩之
 (南丹教育局、京丹波町派遣)
 ▼吉井利一(南丹市立新庄小学校)
 ▼岡村貴之(竹野小)
 ▼伊藤澄子(竹野小、事務主任)
 瑞穂小／中島清人(新規採用)
 蒲生野中／平田敬一(教頭・和知中)
 ▼山下智之(南丹市立園部中学校)
 川勝 彰(瑞穂中)
 瑞穂中／山本健二
 (教頭・亀岡市立詳徳中学校)
 ▼栃下雅世(京田辺市立大住中学校)
 ▼渡部洋子(新規採用)
 和知中／田中健介(教頭・瑞穂中)
 ▼出垣内智尋
 (府立園部高等学校附属園部中学校)
【退職】（ ）は前任
 校長・日下部安良(下山小)
 ▼校長・北村友子(和知小)
 ▼稲元美紀(下山小)
 ▼林 啓治(和知小)
 ▼谷内久美子(和知小)
 ▼薬師川智(蒲生野中)
 ▼澤田雅文(瑞穂中)

消防団(任期二年)

団 長／梅原好範
副団長／湊 嘉秀▼真野勝也▼栗林英治
【丹波支団】
支団長／長澤 誠
分団長／西垣吉裕▼田端卓史
 ▼谷澤利夫▼湊 公雄
 ▼堀内浩二▼湊 博之
 ▼塩瀬健一
副分団長／谷垣哲也▼森本和広
 ▼小山 潤▼村山幸則
 ▼竹内 健▼石田雄二
 ▼川合芳章
【瑞穂支団】
支団長／隅田光郎
分団長／西村正義▼居谷太志
 ▼西田和史▼津田康裕
 ▼堂本 学
副分団長／友金輝幸▼山下 肇
 ▼西村孝之▼山下 泰
 ▼塩田智之▼太野 勉
 ▼前田和彦▼今西和寿
 ▼岡本高幸▼正田智久
【和知支団】
支団長／大田有次
分団長／田中晋雄▼堀 敬之
 ▼堀 太▼竹内伸広
副分団長／古宮幸憲▼小松聖人
 ▼川邊智行▼竹内知広
 ▼岡野 誠▼片山 亮
 ▼堀 正樹▼片山 健

スポーツ推進委員(任期三年)

【新任】前谷浩之(南丹市園部町)
 ▼中川和也(下山)
【再任】
 津田勝二(南丹市園部町)
 ▼東 清子(高岡)
 ▼田中敏夫(橋爪)
 ▼西垣正則(水戸)
 ▼坂本貴之(猪鼻)
 ▼瀬戸 豪(蒲生野)
 ▼片田泰和(升谷)
 ▼山下貴典(南丹市園部町)
 ▼永井千鶴(中)
 ▼西田和志(中山)
 ▼田端敏子(蒲生)
 ▼猪阪身和(富田)

文化財保護委員(任期二年)

浅井義久(森)
 ▼齋藤 治(下山)
 ▼原澤真知子(高岡)
 ▼正田幸治(質美)
 ▼八木啓一(鎌谷中)
 ▼山崎建男(中台)
 ▼片山忠一(安栖里)
 ▼榎本藤雄(下栗野)
 ▼春田 貢(本庄)

女性の会

会 長／寺谷すま子(大朴)
 副会長／上田えり(豊田)
 ▼春田千代美(本庄)
 庶 務／島中千鳥(下大久保)
 ▼原澤美代子(高岡)
 会 計／森ひろみ(安栖里)

食生活改善推進員協議会(ぐるみの会)

会 長／澤井安子(質美)
 副会長／片山和美(角)
 ▼野口和子(曾根)
 庶 務／谷垣洋子(水原)
 ▼米本桂子(曾根)
 会 計／十倉さちよ(安栖里)
 会計監査／太田世都子(才原)
 ▼尾池とし子(小畑)

消費生活グループ

会 長／大西好美(質美)
 副会長／上田百合子(曾根)
 会 計／下林登志子(広野)
 委員／湊 道子(須知)
 ▼船越のな江(水戸)
 ▼山根清美(質美)
 ▼阿部幸子(中台)
 ▼片山和子(出野)
 ▼前林道子(市場)
 ▼田畑美さ子(蒲生野)
 監 査／西田光子(下大久保)

※退任された皆さん、ご苦労さまでした。
 新しくお世話になる皆さん、よろしく
 お願いします。



入団者を代表して梅原団長に対して宣誓する光永さん(蒲生野中学校・蒲生)

地域を守る思いを新たに三十四人が入団

■消防団入退団および役員任命式

平成二十四年度京丹波町消防団入退団および役員任命式が四月一日蒲生野中学校体育館で行われました。式では、寺尾豊爾町長が「役員として任命される消防団の皆さまは、豊かな経験をもとに、安心・安全な住民生活のため、消防団のリーダーとして先頭に立って頑張ってください。新入団員の皆さまは、自分たちの地域を火災や災害から守るため、今日のこの日の決意を忘れず活動にあたってください」と式辞を述べた後、梅原好範団長が副団長以下役員と新入団員に任命書を交付しました。その後、新入団員を代表して光永友和さん(須知)が、地域を守る消防団員としての決意を新たに宣誓しました。

なお、入退団者および表彰受賞者は、次の皆さんです。(敬称略)

【新入団員】

■丹波支団

- 東郷弥行▼山田知幸▼光永友和
- 藤坂英史▼湊純平▼安井 寿
- 谷口陽一朗▼井尻裕也
- 細見優太▼樹山和仁
- 西野光雄▼中井悠貴
- 太田達士▼松村 直
- 岸上光宏▼竹上浩治
- 古井友一▼前谷行哉
- 山根義則

■瑞穂支団

- 岡本秀平▼竹本 努▼山内雄太
- 大村昌巨▼畠中啓輔
- 畠中雅史▼竹内大輔
- 上田大輔

■和知支団

- 中野武久▼中尾裕己▼竹内大介
- 安富 清▼藤田晃義
- 江本宗玄▼森下克人

【退団者】

■丹波支団

- 林 淳▼古田祐一▼横山功一

■瑞穂支団

- 村上幸司▼藤田伍朗
- 田端雄市▼長澤 守
- 森崎健太▼木曾啓弥
- 河瀬智宣▼中野 守
- 村山茂樹▼山村 敦
- 木戸定三▼竹元英典
- 西山祐宣▼山崎忠義
- 山田正雄▼溝口一也
- 渡邊寛人▼鈴木重規
- 川島勇人▼坂本信幸▼松村 悟

【消防庁長官表彰】

永年勤続功労章

栗林英治(副団長)

【財団法人日本消防協会長表彰】

- 功績章 大田有次(支団長)
- 精績章 松山征義(分団長)
- 勤続章 川島勇人(支団長)
- 原田 満(団員)
- 白波瀬吉美(同)
- 梅原和弘(同)▼荒木泰広(同)
- 山根和久(同)

【丹波地域消防連絡協議会長表彰】

- 山本裕司(部長)▼山西勝也(同)
- 中村久己(同)▼荒井伸治(同)
- 湊 浩義(同)▼山下 肇(同)
- 松村英樹(同)▼田中耕次(同)
- 野口明彦(同)▼梅原伸雄(同)
- 山口和之(同)▼原田 宏(同)

※平成二十三年度表彰のため、当時の役職名です。



合意書調印後、固く握手を交わす畠中副町長(右)と松岡署長(役場議場・蒲生)

適 正な行政運営に向け 連絡協議体制を確立

■公共工事等からの暴力団排除に関する合意書調印式

町と南丹警察署が三月二十九日、役場議場において、公共工事等からの暴力団排除に関する合意書調印式を実施。調印式では、関係者らが見守る中、畠中源一副町長と松岡英人署長が合意書に調印し、適正な行政運営に向け決意を新たにしていた。

合意書は、町が行う公共工事をはじめ、その他の事務や事業から暴力団員などを排除することを目的に、相互の連絡協議体制の確立を図るもの。主な内容としては、町長が警察署長に対し契約の相手方が暴力団員に該当するかの意見聴取をしたとき速やかに意見陳述を行うことや、警察署長は暴力団員などに該当すると認められたとき町長に通報と排除要請を行うなど、連絡を密にして取り組むことを明文化しています。

Dr's Message

いきいき健康術 第57回

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は平成二十四年四月から京丹波町病院院長に就任された前田武昌先生。生活習慣病などの病気に関連して発症するリスクが高まる脳梗塞についてのお話です。

脳 梗塞はいつたん発症すると重い後遺障害を残すことも少なくありません。

種々の原因で発症しますが、どうすれば発症のリスクを下げられるかを簡単に説明します。脳梗塞の原因は主に二つあります。一つは動脈硬化、もう一つは心原性脳梗塞です。動脈硬化とは、高血圧、糖尿病、高脂血症、加齢喫煙などが原因となって、アテローム硬化(粥状動脈硬化)や細動脈硬化が起こることです。高血圧の治療をすると脳卒中(脳梗塞と脳出血)の発生を約四割減少させる効果があると報告されています(年齢により多少異なりますが、一般に収縮期血圧が一四〇mmHg以上を高血圧とします)。

糖尿病のある人と無い人では脳卒中になる率は約四倍と言われています。

高脂血症については、治療薬の内服で血中コレステロールを下げることににより脳卒中の発症や再発を二―三割減少させる効果があります。喫煙は少量喫煙(十本未満/日)でも非喫煙者と比べ二倍の発症率があります。

心原性脳梗塞とは、心臓でできた血栓(血のかたまり)が脳の血管で詰まって起こる脳梗塞で、その約半数

『脳梗塞にならないために』



院長 前田 武昌先生(京丹波町病院)

は心房細動が原因です。六十才を超えると心房細動の発症する確率が急に増加します。治療せずに放置すると五―一〇%前後の人が脳梗塞になります。治療により三分の一に低下すると言われています。

また、CTなどで偶然に発見される無症候性脳梗塞(症状の無い脳梗塞)のある方は、再梗塞を起こす危険が増加します。

以上色々な要因で脳梗塞は起こりますが、何らかのリスクのある方はかかりつけの先生と相談して治療をすることをすすめします。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
86-0220

人権を守る思いを新たに

■人権擁護委員嘱状伝達式

四月六日、役場町長室において、人権擁護委員の嘱状伝達式が行われました。
伝達式では、三月三十一日をもって退任された野口正利さん(豊田)に代わり、新たに委員としてお世話になる山崎要志さん(中台)に園部法務局の田村支局長から嘱状の伝達が行われた後、四期十二年間委員としてお世話になり、退任された野口さんに感謝状が贈呈されました。

田村支局長は、山崎さんの今後の活躍を期待し「子どもや高齢者、女性の虐待の問題などがある中で、



田村支局長から嘱状の伝達を受ける山崎さん。奥は退任された野口さん。(役場町長室・蒲生)

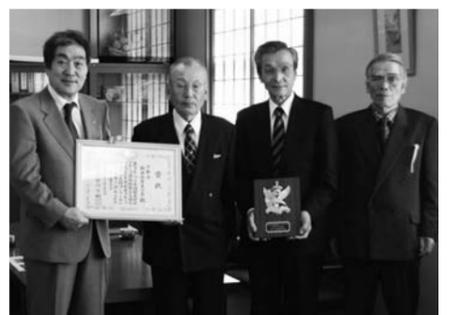
人権擁護の思想の普及・啓蒙をお願いします。」と述べられました。
また同じく今回任期が満了となった西田光子さん(下大久保)と友金一郎さん(大朴)については、引き続き委員をお世話になります。

林野庁長官表彰 受賞を報告

■船井林業友の会林野庁長官表彰 受賞報告

四月四日、船井林業友の会の皆さんが平成二十四年二月二十八日に開催された「全国林業グループコンクール」において受賞された林野庁長官表彰の受賞報告に来庁されました。

今回のコンクールには、昨年八月二十五日に開催された「近畿ブロック林業研究グループコンクール」で最優秀賞を受賞されたことにより近畿ブロック代表として参加されたもので、コンクールでは林業友の会の年間を通じた取組みの発表が



受賞報告に来庁された船井林業友の会の皆さんと寺尾町長(役場町長室・蒲生)

見る人の心を豊かにする

■ふるさと人形展

三月三十一日から四月四日まで、第二十一回ふるさと人形展(町教育委員会、町ふるさと体験資料館運営委員会主催)がみずほ人形の家「みやび」で開催され、期間中延約七百人が来場しました。

同人形展では、町内外から寄贈された雛人形や五月人形など、約

二千体が躍動感ある配置で並べられており、来場者を癒していました。また、期間中、土・日曜日には、地元質美地域有志による模擬店の出店のほか、今回初めての取組みとして、最終日の四日には京丹波町共同作業所で製作された品物の販売が行われました。

同館運営委員長の北村始子さんは、「どの人形も子どものお祝いのた



一年ぶりに見る人形を前に話が弾む来館者(みずほ人形の家みやび・質美)

三十年に一度の大祭を盛大に斎行

■猿田彦神社開扉大祭

四月七日から九日まで、猿田彦神社(水原)において、開扉大祭が行われました。

猿田彦神社では、古来より六十年ごとの庚申の年には、大祭(御開帳を、大祭より約三十年後には中間祭(中間帳)を行う慣例があり、平成二十四年は中間祭の年にあることから、今回三日間にわたる祭礼が行われました。

四月七日には、神事に先立ち地区内外の子どもたちが華やかな衣装を身にまとい、水原区公民館から

猿田彦神社まで稚児行列を行いました。神事後、巫女の衣装をまとった子どもたちによる神楽のほか、奉納芸能が行われ、午後六時から、は、ちようちんみこしが水原地区内を巡行しました。

翌八日には、梅田地域の八つの区からそれぞれ山車やみこしが地区の方に見送られながら猿田彦神社を目指して出発。神社近くで全ての山車などが合流し一斉に神社に練り込みました。

神社に集結後、居並ぶ山車などを前にして、神事・鏡開きに引き続き瑞穂太鼓の演奏が行われ、参



各地区から猿田彦神社を目指して巡行する山車(猿田彦神社周辺・水原地内)

加した人はその勇壮な演奏に聞き入っていました。
なお、最終日となる九日には、今回の大祭を締めくくると神事が行われ、三日間に渡る祭礼は終了しました。

地域活性化の思いとともに大空を泳ぐ鯉のぼり

■由良川の鯉のぼり

今年で三年目となる由良川の鯉のぼりが四月二十一日、和知バス車庫付近で上げられました。

この取組みは、平成二十二年に鉄道開通百周年の記念イベントが行われた際に、地域の活性化のために何かできないかと和知地域の有志十人により立ち上げられた「大空の会」が毎年四月下旬から五月中旬まで行っているもの

です。

当日は、午前八時から会員のみなさんと今回の取組みを聞いた同地域に開校した林業大学の生徒一人も参加し、鯉のぼりと会員の方が作られた「まゆまる」と京丹波町の食のキャラクター「味夢くん」をイメージした作品を上げる作業が始まりました。

三時間後には、地域の活性化が進むことを願う会員のみなさんの思いとともに、作品と約六十四匹の



鯉のぼりが和知の大空に舞い上がりました。
会員の方が製作された作品とともに悠々と大空を舞う鯉のぼり

職員の配置

異動 五月二日付

- 小川和代 (国保京丹波町病院和知診療所看護主任(副師長)兼介護療養型老人保健施設看護主任(副師長))
- 白波瀬小百合 (国保京丹波町病院看護主任(外来主任))
- 中村幸子 (国保京丹波町病院看護主任(地域連携室))
- 大西正美 (国保京丹波町病院和知診療所看護主任兼介護療養型老人保健施設看護主任)
- 大西好美 (国保京丹波町病院看護主任)
- 竹内和代 (国保京丹波町病院和知診療所看護主任兼介護療養型老人保健施設看護主任)
- 野村厚子 (国保京丹波町病院和知診療所看護主任兼介護療養型老人保健施設看護主任)
- 片山亜紀 (国保京丹波町病院看護主任)

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,620,429円
復興支援募金	5,016,741円

*平成24年4月30日現在

わたしたちの町

人口	16,338(-5)
男	7,715(±0)
女	8,623(-5)
世帯数	6,459(+6)
5月1日現在 / ()は前月比	

期待に胸を膨らませ学校生活がスタート

■入学・入所式

四月十日、町内の五つの小学校で入学式が行われました。

本年度は、町内小学校に百八人（竹野六人、丹波ひかり四十三人、下山十七人、瑞穂二十六人、和知十人）が入学し、保護者や在校生に



名前を呼ばれて元気な声で返事をして立ち上がる新入生たち（竹野小学校・高岡）



新しい制服を身にまとい、校長先生の式辞を聞く新入生（瑞穂中学校・大井）



保護者に連れられ、入所式に出席する園児（わちエンジェル・市場）

見守られる中、初めての学校生活をスタートさせました。

式では、六人の新入生に対して山内朝文校長が「しっかりと勉強し、本をたくさん読んでください。自分がしてもらってうれしいことをしてあげましょう。」と新入生に向かって述べ、新入生は明日から始まる学校生活に思いを馳せ、緊張した面持ちで聞いていました。

このほか、四月十一日には三中学校で百四十六人（蒲生野七十四人、瑞穂三十三人、和知三十九人）が入学。四月五日には三保育所（上豊田二十人、みずほ二十一人、和知十四人）で五十五人、四月十二日には、須知幼稚園で二十人がそれぞれ入所（入園）しました。

力を結集して大きな支援の力に

■スポーツ少年団 ジャガイモ植え付け

町内のスポーツ少年団に所属する小学生および関係者約百人が、昨年度に引き続き二回目の取り組みとして、四月十四日に須知高校農場の畑において、京丹波町の友好町である福島県双葉町の支援を目的としたジャガイモの植え付けを行いました。

当日は、社会教育委員の白樫貢さん（とかしみぎ）からジャガイモの植え付け方法の指導を受けた後、子どもたちは白樫さんや須知高校食品科学科の生徒と一緒に雨の後のぬかるんだ畑の中、一生懸命植え付け作業を行いました。

今後は草引きなどの作業を分担して行い、収穫したジャガイモは避難されている双葉町の皆さんのもとへ届けられる予定です。



白樫さんに教わりながらジャガイモの植え付けをする子どもたち（須知高等学校農場・豊田）

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチョウ



【町の花】
つつじ



このたび人事異動により広報の担当をさせていただくことになりました。

役場で働き始めて16年目、まったく初めての分野の仕事となり、写真撮影に、インタビュー、戸惑うことばかりの毎日で、今回の発行に関しても不慣れな者がお伺いしてご迷惑をおかけしたと思います。

これから皆さんにできるだけわかりやすく町内の情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。(T)

編集後記